



2024

09





ハイデルベルグ・ジャパンは **DAYブランケット**の 独占販売直営店となりました！

世界最大の印刷資材メーカーの一つで、グローバルに事業を展開しているフリントグループと、日本におけるDAYブランケットの独占販売契約を締結しました。これまでDAYブランケットを長年に亘り安定的に使用されていたお客様にとって引き続きご使用いただくことが可能になりました。

ブランケットは、印刷の品質を大きく左右する要因のひとつです。そこには刷版から用紙へ正確にインキを転写するという高い能力が求められます。網点がシャープに再現され、ドットゲイン量が少なく安定した印刷を実現することで定評あるDAY3000をはじめ、新たなDAYブランケットシリーズをハイデルベルグ・ジャパンが日本市場へ再度投入させていただくことで、お客様のブランケットの選択肢を広げ、より安定した高品質な印刷物を生産することが可能になります。

DAYブランケットは、ハイデルベルグのワールドワイドのネットワークを生かして国内外のサプライヤーと連携することで、日本のお客様のあらゆるニーズへ対応し、日本市場においても印刷資材の製品ラインアップを拡充し、お客様の成功をサポートさせていただきます。

ハイデルベルグが保証する信頼のブランド

DAYブランケットはハイデルベルグ印刷機に限らず他社製の印刷機をお使いのお客様も、ハイデルベルグeShopを通じてオンラインでご購入することが可能です。

フリントグループのDAYブランケットを始め、ハイデルベルグがご提供するサフィラブランドの厳選された印刷資材は、お客様の生産システムの性能を最大限に引き出し、印刷物の品質向上に貢献します。また、生産システムの長寿命化、長期にわたる生産の安定性確保にも役立ちます。ハイデルベルグは技術的・実用的な幅広い情報を提供し、日常的な仕事から特殊ニーズまでお客様の生産システムに最適な印刷資材が選べるようにサポートできることが他にはない大きな強みです。ハードとソフトの両面からお客様のビジネスを成功に導きます。

ハイデルベルグのeShopは、お客様の日々の生産と品質の安定を第一に考えて取り揃えている、オリジナルサービスパーツとSaphira(サフィラ)ブランドの消耗品をご提供するオンラインショップです。



弊社とのお取引が初めてのお客様は、弊社窓口までお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

ハイデルベルグ・ジャパン株式会社

ライフサイクルソリューションズ本部 担当:本郷/小田部

電話: 03-5715-7185 email: shi.customersupport@heidelberg.com

〒140-8541 東京都品川区東品川3-31-8 www.heidelberg.com/jp

LITHRONE GX/G

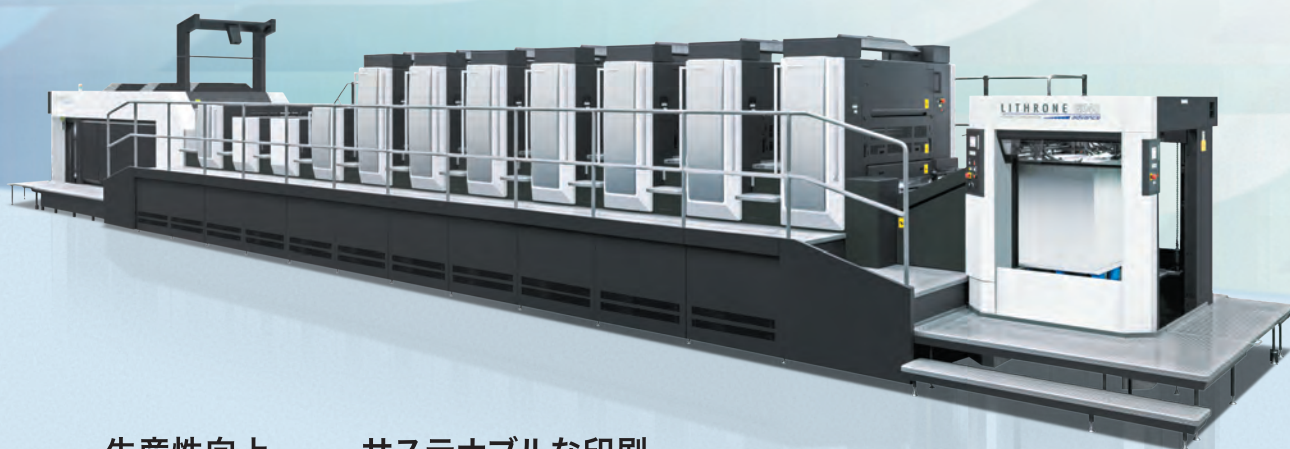
advance

EX Edition

リスロンGX/Gアドバンス EXエディション 生産性とサステナビリティの新基準

世界最高クラスのROI*1を誇り、全世界での導入が進むオフセット枚葉印刷機、リスロンGX/Gアドバンスシリーズ。KOMORIはさらなる生産性向上とサステナブルな経営を実現するため、革新的な新機能を搭載した新しいリスロンGX/Gアドバンスシリーズを開発しました。最新のプリントテクノロジーを駆使し、エネルギーコストの抑制と印刷オペレーターの作業効率向上を実現するリスロンGX/Gアドバンスシリーズは、ビジネスを新たな次元へと引き上げます。

*1 投資収益率 (Return on Investment)



生産性向上



サステナブルな印刷



Photo: GLX-740A
※写真のモデルはオプション仕様を含んでいます。

KOMORI

株式会社 小森コーポレーション

〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 Tel. 03-5608-7806(代表)

おクルマのご購入をお考えの皆様へ!

お車購入の際は
事前にご一報ください。

東京海上日動



- 全メーカー・全系列対応します!
- 商談後にお断りになることも自由です!
- 日頃付き合いのあるディーラーでもOK!
- 新車・中古車どちらもご相談ください!



自動車販売店とご商談を開始する前にご相談ください。



東京海上日動 車両情報センター フリーダイヤル 0120-086-590

※営業時間 9:00 ~ 17:00 土日祝日休業 ※全印工連の組合員である旨お申し出ください! 併せてご連絡先、購入希望の車種などお伝え下さい。

あなたのための、DXでありたい。

DXという言葉がなかった時代から、
デジタルでビジネスの仕組みを変えてきた大塚商会。
テレワークやAIの活用、紙文書の電子化など、
新しい働き方を時代に先駆けて自ら取り入れ、
体感し、お客様に提案してきました。
あなたのビジネスの現場で、
ほんとうに役に立つ生きたソリューションを。
それが、大塚商会のめざすDXです。

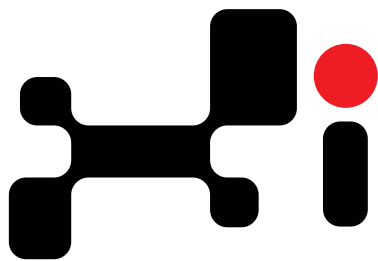


あなたのビジネスに、大塚商会の提案力と対応力を。
<https://www.otsuka-shokai.co.jp/dx/>



 大塚商会

株式会社大塚商会 東京本社: 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡



CONTENTS

次世代リーダーオンライン座談会	6
自動化のその先に トキワ印刷（大阪府東大阪市）	12
全印工連 CSR 認定募集のご案内	14
「第18回 MUDコンペティション」作品募集のお知らせ	15
委員会紹介 経営革新マーケティング委員会	16
共創パートナー企業 ソリューション提案「バリアブル印刷をもっと簡単に！」	17
工組紹介 滋賀県印刷工業組合	18
全青協 くるぞ、ブロック協議会。	19
助成金 中小企業省力化投資補助金について	20
外国人労働者の在留資格「特定技能1号」対象業務に「印刷・製本業」を追加	21
全国の印刷関連イベントのお知らせ	



【本号の表紙】

滋賀県の伝統工芸品「浜ちりめん」をご紹介します。「浜ちりめん」は、滋賀県長浜市を中心に生産される絹織物で、その歴史は江戸時代に始まります。長浜藩の藩士たちが京都から技術を導入し、地域産業として発展させました。最大の特徴は、独特な「しぼ」と呼ばれる凹凸のある風合いです。この「しぼ」は、撚りをかけた緯糸と撚りをかけない経糸を組み合わせることで生まれ、滑らかな肌触りと高い耐久性をもたらします。そのため、着物や帯などの和装に多く使用され、美しいドレープ（流れるようなひだ）が評価されています。

製造には高い技術と熟練の職人技が求められ、手間を惜しまず作られる浜ちりめんは、日本国内外で高く評価され続けています。さらに、現代では伝統的な技法を守りつつ、新しいデザインや用途への展開も試みられており、その美しさと品質は今なお多くの人々に愛されています。

NO.725

令和6年9月10日発行（毎月1回10日発行）昭和44年4月26日第三種郵便物認可 発行人／瀬田章弘 編集人／高橋秀明 発行所／全日本印刷工業組合連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 TEL.03-3552-4571（代） FAX.03-3552-7727
<https://www.aj-pia.or.jp>

本誌では、本文に（株）モリサワのユニバーサルデザインフォントを使用しています。

次世代リーダー オンライン 座談会

一緒に未来を創りに行こう 次世代のリーダーたちに聞く 業界の課題とこれから

印刷業界には全国青年印刷人協議会、全国印刷緑友会、ジャグラ SPACE-21、日本青年会議所メディア印刷部会という4つの全国組織の青年団体が存在する。それぞれの成り立ちや立ち位置は異なるものの、いずれの組織も若手の経営者や幹部社員たちが集い、切磋琢磨して業界の未来を創っていかようとしていることに変わりはない。今回、4団体のリーダーに団体の垣根を超えて、印刷業界や各団体、自社の現状や課題、今後の取り組みについて意見を交わして頂いた。

業界の課題は縮小均衡

司会 早速なんですけれども、まずは各団体の紹介と自己紹介、会社紹介をして頂きます。

西岡 全国青年印刷人協議会議長をしております新星印刷株式会社の西岡と申します。全青協は都道府県印刷工業組合の青年会の代表者で構成される全国協議会という位置づけで、活動として9ブロックの協議会と全国協議会を年1回開催しています。

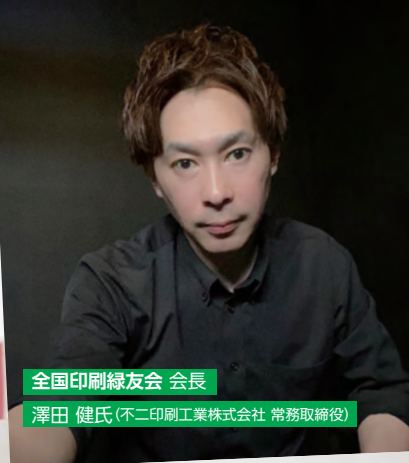
当社は今年創業109年、私で5代目の会社で、大阪市内に位置しており、主に大手鉄道会社の時刻表を製作しております。

澤田 今期、全国印刷緑友会の会長を拝命した澤田です。緑友会は全国の都道府県にある青年部や、任意の24グループ、約470名の会員で構成されています。団体のイベントとして総会、大会、セミナーを開いています。セミナーは全青協さん主催のセミナーに相乗りさせて頂いています。



全国青年印刷人協議会 議長

西岡天芳氏 (新星印刷株式会社 代表取締役)



全国印刷緑友会 会長

澤田 健氏 (不二印刷工業株式会社 常務取締役)



ジャグラ SPACE-21 代表幹事

小澤孝一郎氏 (株式会社オズプリンティング 代表取締役社長)



日本青年会議所メディア印刷部会 部会長

白石陽一氏 (白石封筒工業株式会社 代表取締役)

当社は青森県青森市にあり、社名は不二印刷工業株式会社です。一般的な印刷物を何でも扱っています。お客様は幅広いです。

小澤 今年4月にSPACE-21の代表幹事に就任した小澤です。SPACE-21は日本グラフィックサービス工業会の青年部の位置づけです。会員数は250名です。色々な団体や組織を拝見させて頂いていますが、固くない楽しい団体というイメージです。

当社は株式会社オズプリンティングという山梨県の会社です。創業72年で私は3代目になります。仕事自体はガリ版(謄写印刷)からスタートして、今は総合的に多種多様な印刷物を作っています。最近はECサイトで色々な印刷商品を販売しています。

白石 日本青年会議所メディア印刷部会部会長を務めています白石と申します。メディア印刷部会は、日本青年会議所に41ある業種別部会連絡会議のひとつです。業種別部会連絡会議は41の業種ごとの団体(=部会)の代表者が集まって構成される会議体で、青年会議所のビジネス

ネットワークです。総会と年に4回の例会があり、メンバーは198名です。青年会議所の現役世代となる40歳以下のメンバーが29名で、あとの百数十人は先輩方です。

会社は東大阪市の高井田にある白石封筒工業株式会社です。封筒の製造会社で、印刷ではなく封筒づくりがメインです。1910年に創業し、今年が114年目。私は4代目になります。3年前にオリジナルブランドの文具商品を立ち上げて、文具女子博などのイベントに出展して販売しています。

司会 ありがとうございます。これから業界や市場のことについてお話をお伺いしたいと思います。まずは業界の課題についてどう感じていますか。

白石 当社は印刷業界の中でもちょっと特殊な領域にいて、封筒の加工をメインにしています。私たちの業界の課題はオペレーターが入ってくれない、減っているというところ。オペレーター不足という状況だと聞いています。

小澤 やはり紙需要の減少と印刷物の価値の下落が大きいかなと感じます。加えて官公庁の仕事がすごく減っています。私たちの地域だと家族経営で5人以下の規模の印刷会社が多いんですよ。その大半が行政からの仕事に結構頼っているということで、経営が厳しくなっている会社が増えていると聞いています。

デジタル化によるペーパーレスの影響がやはり大きいですね。先日も業界としてもっと仕事を出して下さいと行政に陳情に行くと、「諦めて下さい」と言われるんですね。「紙の発注を増やすつもりはございません」と。今までのやり方を何とか変えなければならぬのですが、経営者は変わるかもしれないけれども従業員にその想いをいかに伝えられるかが大きな課題だと思います。

澤田 デジタル化が進む中で紙が市場的に縮小傾向にあって、なおかつ用紙代が高騰している。淘汰される会社が出てきているのが現状だと思っています。

もう一つは人材不足。若手の人が採用できないし、何よりノウハウや技術を次の世代に伝えられないまま、ベテランが退職してしまうのが一番困るんですね。

西岡 皆さんと感じていることは一緒なので、中々それ以上の課題が出てこないのですが、業界の魅力が世間に伝わっていない、もしくは魅力そのものが失われてきているかなと。縮小均衡の状況では「儲からなさそうだな」、というイメージになってしまう結果、そこに入っていこうという若手がいなくなるという負のスパイラルに業界が置かれていると感じます。

司会 話を聞いていると明るい未来が見えてきませんね。取り敢えず現状の課題の洗い出しということで各団

体の課題も聞いてみたいと思います。

西岡 やはり後継者が一番の課題じゃないですか。地域によっては青年部がなくなっています。予算もなかなか付けられない状況ですし、役員までやられていた方が、ご子息を組合には入れておられなかったりする状況も耳にしますね。組合員数が減っているので、積極的な参加人数も少なくなり、資金もプールできないんですね。そんな中にあっても、全青協は仲間とつながれるし、積極的に参加される方は元気が良く、活動的な方だと思いますので、その勢いを外にどう伝えていくかが重要なポイントですね。



澤田 緑友会も似たようなところがあって、課題は会員の減少です。ちょっと前までは少しずつ減っていたのですが、近年は減少幅が非常に大きいですね。そうすると当然、取れる予算が限られて、活動の幅も狭くなってやりたいことができなくなることが一番懸念しているところですね。

小澤 会員減少はどの団体も同じですよ。それに加えて新しい人があまりいないことも課題だと思っています。例えば新たに業界に参入して、会に入りますという人はそれほどいないじゃないですか。新しい感覚の人が入ってくれば新しい価値観を学べますから新しい人を入れられないかと考えています。

ジャグラーでは青年部がない県支部があります。SPACE-21でそうした支部にも会員を募って拡大していこうとしています。

司会 他業種の方も入っているのですか。

小澤 支部によっても違うみたいです。例えば運送業の方が入っている支部もあれば、印刷関連業だけに限定している支部もあります。基本的に印刷関連業だけの支部が多いと思います。

白石 JCは卒業したら現役からOBになります。ですからメディア印刷部会としては現役世代を拡充し続けていくことが課題です。現役がものすごく少ないという時もありました。印刷業界でJC自体に入会している人がだいぶ減っていると感じます。

私の拡充の方法は全青協で全国を回った時に、全国のJCの若手会員に声を掛け拡充しました。何人か入会してくれたのですが、声を掛けた方の多くは「そんなのあったの?」という感じで、メディア印刷部会を知らず、声もかけられたことがないという方が意外と多かったです。こちらからもどんどん声を掛けていくことが重要だということが分かりました。

西岡 ちょっと小澤さんにお伺いしたいのですが、支部によって異業種や他業種を受け入れたり、受け入れなかったりというお話は、どこで決められるのですか。

小澤 本来は定款で示す通り、グラフィックサービス工業を営む法人又は個人及び団体となっていますが、組合ではなく一般社団法人ですので、ジャグラの目的に賛同し、理事会の承認が得られれば異業種、他業種でも入会が可能です。

司会 どういうメリットがあって入会するのでしょうか。

小澤 プライバシーマークの取得で、製造業特有の個人情報保護のポイントをおさえられる点でしょうか。あとはSPACE-21の中で、知らない世界を見たいという人もいるという話も出ました。だから制限を掛けずに色々な方面に声を掛けるのは大事だと思います。

人の魅力が組織の魅力

司会 課題をお聞きしましたがけれども、青年部の意義や魅力について皆さんどう考えていますか。

小澤 SPACE-21のひとつの役割としては親会の会員獲得ですね。SPACE-21に入ってもらって、結果的にジャグラにも入会してもらおうのが私の仕事だと認識しています。親会の活動にはまだ興味がなかったけど、支部青年部やSPACE-21には入りたいという人もいます。

司会 そういう方はどこに魅力を感じているんですか。

小澤 自由なところだと思うんですよね。仲間になってまずは楽しもうよ、というところがSPACE-21の魅力です。どの会もそうかもしれないのですが、会そのものの魅力と

いうよりも、尊敬できる人がいるとか、仲良くできる人がいるとか、その会にいる人の魅力が大きいと思います。

西岡 全青協は、未来の全印工連を担う人材育成の一つの道としての意味があると思います。全青協はけっこうまじめで、しっかり勉強します。もちろん勉強が終わったら仲間たちと飲みにいいますが、そのまじめさのところが私にとっての魅力で、合っているのかなと思います。

白石 JCメディア印刷部会の最大の魅力は、色々な業種の人がいることです。全員がLINEでつながっており、仕事の相談や悩みをLINEで送ると、「うちでできますよ」、「紹介しますよ」と返信がくる環境があります。

澤田 私が所属している青森県印刷工業組合には青年部がないんですよ。青年部があると学びも深まるだろうなというのが他の青年部を見て感じているところです。緑友会には親会に当たる団体がありません。先輩方との縦の関係ができるのは親会のある青年部の良さだと思います。

緑友会の魅力は、交流に重きを置いているところです。各グループの集まりがゆえに、フラットな関係で横の繋がりは非常に強固だと感じています。



可能性はたくさんある

司会 1人の若手経営者として、皆さんは印刷市場やビジネスの可能性をどう見ていますか。

澤田 さきほど市場的に縮小傾向にあると言いましたが、ピンチはチャンスだとも思っています。デジタルという今の世の中の流れの中でうまく立ち回って、柔軟な

シフトチェンジができる会社になっていけば変わるはずで、その可能性は十分にあると考えています。

小澤 当社では活版印刷が体験できるお店を開いています。そこで観光客をはじめ、県外から甲府に来て頂いた方に印刷体験と、ペーパーアイテムを中心とした雑貨を提供しています。地域活性化と自社ブランディングの一環として始めたものです。山梨県とコラボレーションして、アニメ好きの方々向けの観光周遊のイベントを実施していて、そうした方々に来て頂くと、金額とか関係なく結構買ってくれるんですよ。そうした高付加価値化という部分に私たちの可能性があると思っています。

去年、緑友会の長野大会に参加させて頂いた時に、講演された方がインフレ時代をテーマに話をされていました。安くてそこそこのものが売っていたデフレ時代から、良い品質でしっかりとしたものが売れるインフレ時代変わったということで、印刷物もそういう流れにあると感じました。私たちの業界の可能性はあるとも思っていますが、もっと技術力を上げて、色々な商品開発に力を入れていくべきです。



白石 可能性としては製造業として機械を持ち続けることです。封筒の製造は特殊な技能が必要で、誰もができません。紙の癖を見抜いていく能力が求められ、修行にも結構時間がかかります。技術者を育てて能力を上げ、技能を継承していけば絶対にもっと良い未来になると思います。

当社のやり方は、自分たちが作った商品に対して絶対

的な自信を持ち、基本的に値引きをしないことです。その一方でお客様から選ばれるためのサービスに力を入れています。

西岡 当社で作っている時刻表は鉄道会社向けです。内部の人に向けた製品で、ちょっと特殊なところがあります。鉄道会社が一番に重視するのは安心、安全です。それが紙媒体でなければ担保できないと認識されています。いざ停電になった、地震が来たとなった時に、紙が手元にあるということがすごく価値になるんですよ。

そして、なんといっても五感との融合が紙媒体の強みだと思っています。私は、聴覚に関心があって、紙に触れながら耳で聞くというような領域もできるのではないかと考えています。全青協でもポッドキャストで情報の配信をしています。それからAIをどれだけ使いこなすか、これから需要になってくると思っています。

司会 皆さん、これからの印刷業界を引っ張っていくわけですが、DXの視点は外せないですね。

白石 今、弊社では Kintone を使ってクラウド上で生産管理を実行する仕組みを作っています。

小澤 人が携わっていた業務をデジタル化することで、特定の人だけができていたことが誰でもできるというのがデジタルトランスフォーメーションだと思います。そうした側面からジャグラーとして現在、コンパクトDXという事業を進めています。

私がちょっと取り組もうとして頓挫してしまったのがレコメンドプリンティングです。デジタルで人の行動を分析して自動的にDMが発送されるような仕組みです。クライアントのお客様リストを使ってターゲットの好みから自動的に印刷物を作成し、発送まで請けるというものです。結果的に断念したのですが、デジタルの力を使えばそうしたことも可能です。デジタルの力を使って、お客様から求められる商品を開発するのが重要ではないかと思っています。DXとはデジタル化の先にある価値の創造だと考えています。

西岡 デジタルなのか、トランスフォーメーションなのか、どちらにフォーカスするのかで意味が違ってくるでしょうね。業務の効率化というよりも、ビジネスモデルを変えるぐらいのトランスフォーメーションが焦点になるのかなと思っています。AIにしてもツールに過ぎず、使っていくのは当たり前で、何かを変えるという視点が必要だと思います。

澤田 最近感じたことがひとつあって、皆さん居酒屋に飲みに行くと、二次元コードとスマホで注文することがないですか？ 絶対に紙のメニューを見て、注文するものを選ん

で伝えた方がいいと思うんですよ。居酒屋にとってのDXなのでしょうけれども、お客様にサービスを提供する場合に自分よがりの自己満足ならないように気を付けないといけないですよ。ある意味、アナログが大切な場面もあるということです。

司会 これから各団体のリーダーとして何に取り組みたいです。

小澤 SPACE-21として単独で何らかの事業を展開したいと思っています。今年の総会では組織大改革をテーマに挙げました。事業としては社員の人と一緒に考える「ビジネスコンテスト」を開こうという案を出しました。会社を変えるのは社員を変えることなので、一緒に考えたビジネスモデルをコンテスト形式で集めて発表するというものです。コンテストが目的ではなく、社員の人たちと考えていく過程に価値を見出していこうということです。

西岡 全青協の今期のテーマは「地域変態計画～アトツギベンチャーが未来を変える～」です。先の見えないご時世、旗を振って進んでいくべきは社長です。リーダーがワクワクしながら「変態的 (NotNormal)」に取り組んでいける事業をうち立て推進することで、会社や地域も「変態 (metamorphose) する。全9ブロックの特色を活かしながらそれぞれに新たな波を起こそうとしています。2年の集大成としては、先ほど小澤さんがお話された「ビジネスコンテスト」にかなり近いビジョンを持っています。

澤田 やりたいことのひとつが海外視察です。ベトナムの平均年齢は31歳ぐらいで、パワフルな国です。もちろんヨーロッパやアメリカもそうですが、その地で今の時代の日本とのギャップを体感してもらいたいという思いがあります。そこで印刷のことを勉強しなくても良いので、風習や風土を感じることで、意識や考え方が変わってくると思うんです。

白石 JCメディア印刷部会の今年のテーマは「強靱なつながり」を掲げています。私自身が全青協、緑友会にも入っていて、SPACE-21にも仲の良い会員の方がいます。そんな私であれば、他団体との架け橋になれると思い、このテーマを掲げました。緑友会やジャグラの大会にメディア印刷部会として参加させて頂いております。もっとつながりを広げていきたいと考えています。

もうひとつは現役世代とシニア部会の方々との交流です。今年は積極的にシニア部会と合同でイベントを開催しております。

司会 今までお話を伺って、変わっていくというのが共通のキーワードだと思います。変わるためには何が必要ですか。

澤田 ちょっと思い浮かんだのが、想いとか信念とかでは

ないかと思います。精神的な話ですみません。揺るがない軸の通った想いが、会社を変えるためには一番重要ではないでしょうか。

西岡 全青協の今期のテーマである「変態」に通じるのですが、澤田さんと同じで、けた違いの熱量や行動量が何かを変えるのだと思います。

白石 自ら動いてその姿を見せることです。コミュニケーションで伝えたい人に本気で語りかけていく。俺はやりたんだよ、と言う機会をできるだけ多くしていくことです。



小澤 当社の場合、自分の考えを伝えて、こう変わって行こうぜ、と言ったら社員の半分ぐらいが辞めたんですね。そこから残ってくれた社員とともに組織を変えました。代表の下に統括部長という役職を設けて全体を把握する仕組みにしました。給与体系や人事評価制度も変えてようやく社員が変わってきています。それと社員と飲みに行つて関係を深めることです。

司会 ありがとうございます。各々団体のアイデンティティは違えども、皆さんは同じ若手の印刷人です。競合するわけではなく、刺激し合つて力を合わせていく仲間といえるでしょう。共通する課題も多く、タッグを組んでいけば大きな波が起こせるのではないのでしょうか。ぜひとも4団体が連携して、魅力ある印刷業界の未来を創って頂きたいというのが正直な思いです。本日は色々とお話を頂きありがとうございます。



Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントのサブスクリプションサービス

豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール

morisawafonts.com



モリサワ

CASE STUDY

トキワ印刷(大阪府)

自動化のその先に

印刷・抜き型のギャングングを自動化
台紙・厚物のネット印刷
『わがままプリント』支える

トキワ印刷株式会社の主要事業は小売店の店頭で並ぶ商品パッケージの製造である。パッケージは、衝撃から商品を守る機能に加え、消費者のアイキャッチを逃さないためにクライアントからの品質要求が非常に高い。その一方で、パッケージにかかる費用は、商品自体の価格に反映されるので、コストもシビアに見られる。同社はそうした厳しい市場のニーズに応えるべく製造現場を改善しながら、ウェブサイトを活用した新事業にも取り組んでいる。同社の面付け・大貼りの自動化は、それら既存業務の効率化と、新事業のサービスを支えるバックヤードの強化が大きな狙いだった。



代表取締役 渡辺貞城氏

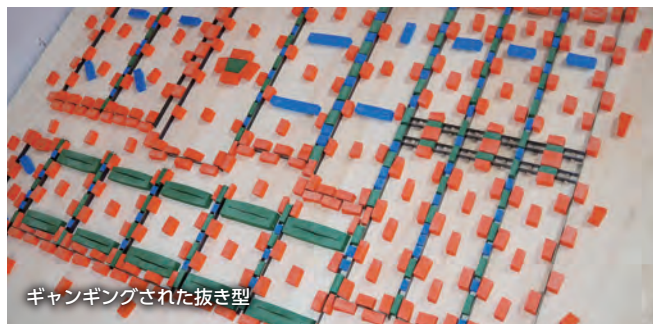
現在、“厚物”の事業領域に集中しているが、渡辺貞城社長が入社した2008年当時、トキワ印刷が掲げていた看板は、薄物も印刷する“総合印刷会社”だった。情報系印刷のデジタルシフトで商業印刷市場の先行きが不透明になる中、同社は厚紙印刷を軸としたパッケージの製造に経営資源を傾けていく。

渡辺社長は、「薄紙の印刷は当社でなくても多くの印刷会社が手掛けています。だったら当社が強みを生かせる厚紙の専門になろうと方針を定めました」と事業戦略の舵を切った。今では70%だった厚紙印刷の比率は90%にまで高まっている。

主要クライアントは肌着・インナーメーカー、調理器具メーカー、剃刀メーカーなどのブランドオーナー。直請けがほぼ100%で、企画から設計、印刷、抜き、貼りまでを一貫生産している。

国内の厚紙市場は微増状態で安定してはいるものの、人口減少に伴い飛躍的に成長する見込みは薄い。ブランドオーナー側も、消費者向けの商品の多くがコモディティ化により競争が激しくなり、ニーズの多様化に対応するために商品バリエーションを細分化している。それに付随するパッケージも当然、多品種・小ロット化が進み、近年は特に環境配慮も求められるようになった。その大きなトレンドに加えて、コロナ禍がもたらした需要の変動は、同社のこれまでの事業と業務の在り方を見直す契機となった。

「OLやキャビンアテンダントなど人と接しながら働く女性が、コロナ禍でストッキングを履く機会を減らしました。



もちろんパッケージ需要も多大な影響を受けました」固いと言われるパッケージでも商品の特性によって減った領域もある。主力の肌着・インナーパッケージの中では女性用ストッキングが激減。巣ごもり需要で調理器具が一時期増えたが、毎月、消費されるものではなく一過性の特需に過ぎなかった。

コロナ禍に突入する前から、同社ではケーキ箱のネット通販『ハコセレブ』、箱や台紙の印刷ネット通販『わがままプリント』、消費者の目の動きを追跡して可視化する『アイトラッキングリサーチ』と新しい事業を立ち上げてきた。コロナ禍で既存需要が揺らぐ状況のもとで、その中から注力したのが『わがままプリント』だった。

抜きのギャングングで低コストを実現

『わがままプリント』はウェブ上で、形状、用紙、表面加工、サイズ、FSC 認証表示の有無、発送先を指定すると価格が表示され、宛名など必要項目を入力して見積書を発行



する。銀行振込で見積金額を入金し、データ入稿後、約3週間で台紙が届く。

最大の特徴は価格。箱や台紙の加工には抜型が必須で、通常、パッケージの販売価格に占めるコストの割合が高く、小ロットへの対応も厳しい。『わがままプリント』ではギャンギング(付け合わせ)でその課題を乗り越えた。

同社では長年にわたり調理器具のパッケージで、印刷と抜型のギャンギングを手掛けてきた。同一版面上に異なるジョブを面付して刷版代と型代を圧縮するとともに、1,000単位での発注を可能にした。調理器具メーカーのアイテムは約6,000種類で、それらの製造を一手に受託。紙の種類を3種類に絞り込みながら、1回の発注ロットを下げつつコストも抑えた。

『わがままプリント』では、調理器具のパッケージのギャンギングで空いたスペースに受注したジョブを配置することで、型代込みで低価格帯を実現している。ギャンギングの効果を発揮させるためには、まとまったジョブ数が必要だが、同社には定期的に一定のペースで受注が入る調理器具のパッケージがある。

そのギャンギングの作業には基本的に営業担当者が当たっていた。仕分けされた封筒から保存用のパッケージサンプルを取り出し、白い紙に貼りながら版面への最適な配置を決めていく。複数の台を同時に進行するが、完全な手作業で「版面設計」には数時間を要する。

「顧客対応よりも面付パズルが仕事になってしまうことがあり、これは何とかしなければということで、2022年にPhoenixというソフトウェアを導入して、ギャンギングの自動化を図ったのです」

ギャンギングは納期や用紙、色数、表面加工の有無など複数の要件を判断しながら、最も無駄なくジョブを配置する必要がある。これら一つ一つの要件をデジタル化し、データとしてインポートすることで、ソフトウェアが自動的にジョブの配置を決める。これにより人によるギャンギング作業はなくなる。

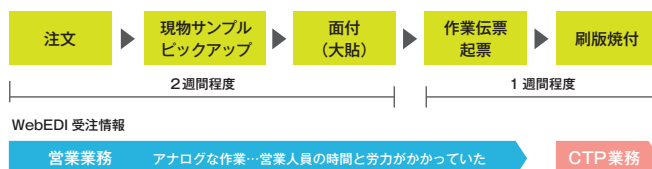
同社では約1年をかけて要件のデジタル化と、仕様を入力する手順やルールを検討。現在はPhoenixに、発注のあった調理器具のパッケージや『わがままプリント』で

受注した台紙・パッケージの仕様を入力したExcelデータを送っている。

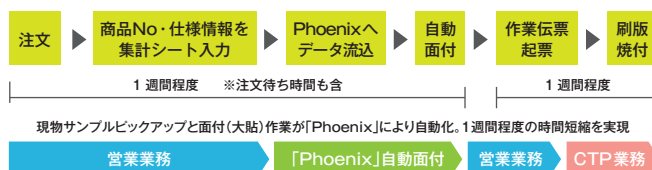
Phoenixでギャンギングされた版面は、CTPのオペレーターが確認し、修正があれば配置を変えて面付データを生成する。抜き型の業者にその面付データが送られ、数日後に抜き型が納品されていく。

このワークフローが構築されて以降、営業担当者がギャンギング作業に当たることは少なくなっている。

●導入前の業務フロー



●導入後の業務フロー



「営業担当者は50代、40代、30代ですが、新しい社員が入った時にノウハウの詰まったギャンギングを覚えこませることは困難です。Phoenixを使って修正した方が断然早いと思います」。ギャンギングの自動化は、今後、顕在化することが予想される技能継承の問題にもかかわる。その一方で、まだ課題も残る。

同社のギャンギングの面付には特徴があり、配置するパッケージの一边を必ず揃える。抜いた後に、断裁機でその一边を切ることで、ハンマーなどを使った落丁作業(ムシリ)が必要なく、製品の仕分けも楽になる。しかし、このような特殊な方法はソフトウェアによる自動化がまだできていない部分で、ほとんどの面付に修正作業が入ってしまう。

「とりえず7割ぐらいまで完全自動に持っていくことが目標です。また、今はExcelに受注したデータを入力していますが、生産管理システムからPhoenixにインポートするデータを自動生成できるようにしたいと考えています」

『わがままプリント』は今年開催されたpage2024やJP2024印刷DX展にも出展され、同業者からの関心を集めた。渡辺社長はこれからの成長事業として期待しており、自動化による生産の効率化を背景に、印刷業界内からの需要も伸ばしていきたいと考えている。

トキワ印刷株式会社



代表者：代表取締役 渡辺 貞城
従業員：31名(2024年7月現在)
所在地：大阪府東大阪市池島町8丁目6番32号
<https://www.tokiwa-print.co.jp/>

◀「わがままプリント」ホームページ

全印工連CSR認定募集のご案内

2024年12月ワンスター認定(応募締切:10月31日)

CSRは、企業が社会から信頼され魅力ある会社となるための企業戦略・成長戦略であり、地域密着型の中小印刷業においては、優秀な人材の確保や企業ブランドの確立、顧客や金融機関による企業評価の向上等につながり、持続可能な経営に寄与するものです。

全日本印刷工業組合連合会(以下、全印工連)では、CSR研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと中小印刷業CSR規格を策定し、企業のCSR認定に取り組んでいます。これからCSRに取り組む企業様も既に取り組まれている企業様もCSR認定をご活用くださいますよう、ご案内申し上げます。

※2024年7月現在のCSR認定企業は140社

募集期間

2024年8月1日(木)～10月31日(木) ※2024年12月認定登録(予定)

申請書類

応募申込書の到着後、全印工連より申請書類をお送りいたしますので、次の①～⑤を提出して下さい。

- ①CSR取り組み項目チェックリスト
- ②法令遵守宣誓書(所定様式)
- ③納税証明書(税務署が交付した証明書)
- ④過去3年の行政処分がないことの宣誓書(所定様式)
- ⑤添付書類(CSR取り組み項目チェックリストでチェックした項目を証明する書類)

認定の概要

ワンスター認定はCSR認定の標準認定であり、審査機関のCSR&サステナビリティセンターが書類審査を実施し、外部の有識者で構成する全印工連CSR認定委員会において認定します。認定企業は、CSRマークを自社の名刺やホームページ、顧客の印刷製品に表示することができます。

認定取得後は2年毎に更新審査を行い、上位認定であるツースター認定を取得することも可能です。

ワンスター認定 CSRマーク



認定の仕組み



CSR認定証



(単位: 円・税込)

認定費用

※認定費用は従業員規模により異なります。
従業員数には従業員のほか役員も含まれます。

従業員数	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～99	100～199	200～299	300～
組合員	55,000	60,500	66,000	77,000	88,000	99,000	110,000	121,000	132,000
組合員外	110,000	121,000	132,000	154,000	176,000	198,000	220,000	242,000	264,000

お問合せ

CSR認定の詳しい内容、申請書類等については、CSR認定のホームページをご覧ください(右記QRコードからご覧いただけます)。

URL https://www.aj-pia.or.jp/csr_main/
e-mail csr@aj-pia.or.jp



「第18回 MUDコンペティション」作品募集のお知らせ



全日本印刷工業組合連合会では、「すべての人に優しく、誰もが快適に利用できること」を目的として、デザインや文字など、より多くの人に伝わる情報を提供する「メディア・ユニバーサルデザイン」の活動に取り組んでいます。

この取り組みをより強固なものとするために、今年も「第18回MUD(メディア・ユニバーサルデザイン)コンペティション」を開催し、高齢者、障がい者、子ども、外国人などに対して見やすさ・伝わりやすさに配慮した、アイデアに富んだ作品を募集します。

募集期間

2024年9月2日(月)～12月6日(金) [当日消印有効]

応募資格

一般の部：プロ・アマを問わず、どなたでもご応募いただけます。

学生の部：大学・短期大学・専門学校・高等学校に在籍している学生・生徒。

募集部門

①「グラフィックテクニック(DTP)」部門

文字、組版、図表、イラスト、色使いなどを工夫した作品

②「商品企画」部門

種別、分野は自由で MUD を活用したオリジナル作品

③「製本、加工技術」部門

折、製本、形態など後加工で使いやすさに工夫をした作品

【募集作品例】

高齢者、障がい者、子ども、外国人などに対して、見やすさ・伝わりやすさに配慮したデザイン手法を用いて制作されたもの(カレンダー、地図、パンフレット、パッケージ、チラシ、ポスター、ラベル、カードゲーム等)

授与賞

一般の部：経済産業大臣賞、優秀賞、佳作の各賞

学生の部：経済産業大臣賞、優秀賞、佳作の各賞

応募方法

作品1点とデータ1点(ai/eps/jpeg/pdf いずれかの形式でアウトライン化して保存したもの)を、出品申込書と共にお送りください。データはギガファイル便等のファイル転送サービスをご利用のうえ、メールにてご提出願います。

出品料

一般の部：3,300円(応募作品1点につき)

学生の部：無料

作品応募・お問合せ先

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館4F

全日本印刷工業組合連合会

MUDコンペティション担当係

TEL 03-3552-4571

E-mail mud-competition@aj-pia.or.jp



第17回経済産業大臣賞【一般の部】

作品名：「現在地住所を案内するサイン ココ!サイン」
受賞企業：大阪シーリング印刷(株)(大阪府印刷工業組合)





今期から経営革新マーケティング委員会の委員長を仰せつかりました東京都の木村崇義です。2年間よろしくお願い致します。

印刷業界が直面する多くの課題を乗り越えるには、同質化による価格競争から差別化による「価値協創」へのシフトが必要です。経営革新マーケティング委員会は価値協創の実現のため、「価値創出支援」、「経営基盤強化支援」、「オープンイノベーションの推進」の3つの部会を立ち上げ、事業を進めていきます。

価値創出支援事業では、変化する顧客ニーズへの対応や新たな顧客価値を創るための支援を図ります。価値創出に繋がる業態変革の好事例を収集・研究・発信していきます。令和6年度は「価値と価格（見積）」に関するセミナーをスタートにして、価値創出のための日常的な戦術（考え方）から、新たな価値を創出するための戦略（例えば令和版業態変革のようなこと）に取り組みたいと思っています。

経営基盤強化支援事業は価値協創のための経営基盤を創るための取り組みです。一番のポイントとして、生産性の向上、生産工程の見える化に注目し、印刷業の収益を改善する情報を発信します。具体的な支援策に中小印刷会社向けの基幹業務システム「BRAIN」の提供（販売）があります。生産工程の見える化やDXについて、単にシステムだけの提供・紹介ということではなく、様々な基幹システムを各社がどのように活用して生産性を向上させているかなど、各種システムが進化してきている今だからこそ、その活用事例紹介やシステムと連動している現場の仕組みなども含めて、研究・発信していければと考えています。

経営革新マーケティング委員会

委員長 木村 崇義氏

価値づくりに 繋がる事業を展開

挑戦しやすい事例を 広く紹介

オープンイノベーションの推進事業では、業界内外のつながりを強め、協創のための仕掛け作りを進めます。令和6年度は、印刷機材メーカーなどの印刷関連業と連携を強めていきます。7月29日には「drupaの振り返りと業界トレンド分析」をテーマにしたセミナーを実施しました。今後はメーカーのソリューション事例や補助金・助成金情報などを発信していくとともに、効果的に組合員に情報発信していくための仕組みの強化（協創）も視野に活動を進める予定です。

私の委員会活動の方針としては「実践」があります。私自身（また委員会メンバー）がやらない、やれないようなテーマは扱わず、私たち自身が実践して役に立つと思えるものを取り組んでいきたいと思っています。価値協創につながる経マの委員会活動、全国組合員の皆様もぜひ一緒に実践していきませんか？ セミナー等のご参加、お待ちしております。

価値創出 支援事業

- 価値創出の事例研究/事例発信
- 価値創出に向けた活動支援
- ケースメソッドの周知

経営基盤強化 支援事業

- 生産性向上や見える化の事例研究/事例発信
- 生産性向上や見える化の活動支援（BRAIN等の支援策案内）
- 勝ち残り合宿ゼミの周知
- 下請法適正化の推進協力

オープンイ ノベーションの 推進事業

- オープンイノベーション（異業界/関連業界/組合員間の協創）推進
- 「共創ネットワーク通信」の活性化と機能強化
- Adobeライセンスプログラムの周知/普及に向けた情報発信
- 印刷産業連携推進室との連携と活性化の推進

手間のかかるデータ作成はソフトウェアにお任せ バリアブル印刷をもっと簡単に！

PDFFormstudio は、バリアブル印刷用のデータを作成するソフトウェアです。

宛名、ナンバリング、バーコードなどさまざまな可変要素が入ったデータを簡単に作成することができ、需要が高まる印刷物のパーソナライズ化への対応や商品ラインアップを増やすことで、顧客への新しい提案にもご活用いただけます。

バリアブルデータを簡単かつスピーディに作成！

ダイレクトメールやチラシ、ラベルなど多様な印刷物のバリアブル印刷用 PDF データを、簡単かつスピーディに作成。これまで時間がかかっていたバリアブル印刷のデータ制作を一気に効率化します。知見がなくても操作を習得でき、属人化の解消とノウハウの継承に最適です。

例) 宛名と個人別の QR コードを配置したハガキ DM5,000 件が 3 分 38 秒、ナンバリングを配置したチケット 1,000 件がわずか 8 秒



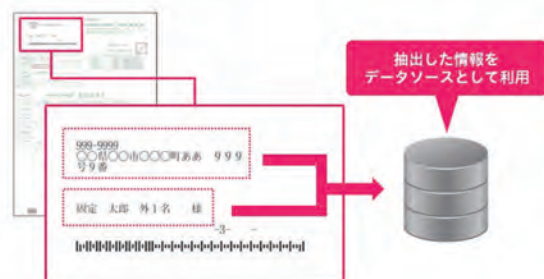
さまざまなアプリケーションに対応する豊富な機能

マーケティングやトレーサビリティに欠かせない可変情報を追加する機能（ナンバリング・健康診断や成績表の可視化グラフ・区分郵便物・バーコード など）を多数搭載。これまで手間や時間がかかっていたデータの準備作業を大幅に短縮し、効率的な印刷と顧客満足度向上に大きく貢献します。

テキスト抽出で名寄せ・区分け作業を自動化

識別番号や郵便番号、ページ番号、住所、氏名などの抽出された文字列をもとに、名寄せや区分け処理が可能。必要に応じて、背景データとの合成処理や、可変画像の追加も行えます。

また、トランザクション印刷で求められる多様な串刺し面付け設定にも柔軟に対応。後加工用のバーコードやアクセサリも出力できるため、後加工処理もしっかりサポートします。



レコードごとのページ切り出しが可能

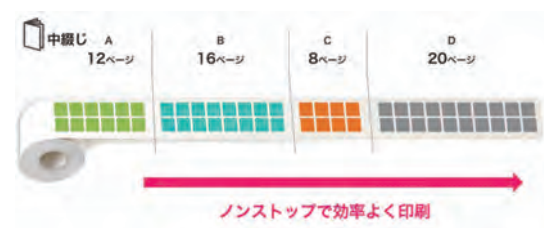
1 ページの PDF に複数レコードが連結された PDF もレコードごとに分割が可能。これにより、レコード単位でのデータ加工が可能になり、デジタル印刷機や後加工機の仕様に合わせたデータ制作が容易になります。



ジョブをまとめてデジタル印刷機の稼働を効率化

小ロットの複数ジョブを 1 ロールごとにまとめて連結したり、大ロットのジョブを複数のロールに分割したりすることが可能。

また、後加工機のセットアップ用に任意のページに調整紙の差し込みも行えます。



安心のサポート体制

国内開発のソフトウェアで、定期的な機能アップなどを行っており安心して継続利用いただけます。トラブル時も電話サポートからオンサイトまで迅速に対応します。製品はパッケージ版と、年間利用版（サブスクリプション版）の 2 種類をご用意。初期投資を抑えた利用も可能です。

滋賀県印刷工業組合は、昭和 25 年に設立され、滋賀の印刷業界の活性化と、さらなる発展を目指し、連帯の輪を拡大し、明日に向かって躍進を続けています。2022年からは、色に携わる産業として、滋賀県の風土や自然、暮らしに根付いた伝統の色を未来に伝える「淡海（おうみ）のいろ」プロジェクトを立ち上げて活動しています。

■「淡海のいろ」プロジェクト

「淡海のいろ」プロジェクトは滋賀県立大学生生活デザイン学科と連携し、滋賀の生活や自然にある色を、「淡海のいろ」として選定、伝えていくものです。昨今、画一的なデジタル化によって、地域らしさが希薄になりつつあります。プロジェクトを通して、「淡海のいろ」を次世代に伝えていくことにより、当組合の社会的意義を高めるとともに、色再現技術の研鑽を重ねることを目的としています。

当組合は2022年度より、プロジェクト会議を数回にわたり開催。滋賀県立大学の除慧講師やコクヨ工業など、外部有識者を交えて様々な視点を培いました。結果、2022年度には12色、2023年度には15色の「淡海のいろ」を制定しました。15色の内容は長浜市を表現する「神々の館（竹生島）」、甲良町を表現する「穂波立つかわら（甲良米）」など様々で滋賀県内19市町を象徴する色を定めています。



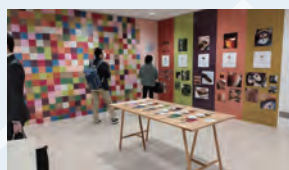
【商品化・展示イベント】

当組合は今後、「淡海のいろ」のライセンスを提供し、新たな商材を開発してもらうことを目標としています。具体的な成果として、滋賀県に本社をおく流通王手「平和堂」と文具メーカーのコラボ企画として、「母の色」「親分」「でっちのおやつ」の3色の「淡海のいろ」を使用した、万年筆用オリジナルボトルインクが商品化されました。2023年11月、適切なライセンス提供のため、第16類および第35類の区分で商標登録を申請し、2024年7月に登録されました。

「淡海のいろ」を披露する展示会も催され、2023年には滋賀県立美術館で「淡海のいろ」展を開催し、プロジェクトの成果を出展。2024年に「淡海（おうみ）のいろ」プロジェクトの展示イベントを無印良品ビバシティ彦根で開催しました。イベントでは、2023年度に淡海のいろに追加選定された15色を紹介しています。また、期間中には滋賀県立大学の印南比呂志名誉教授によるトークイベントの他、週末を中心にワークショップも開催されました。開催期間がゴールデンウィークとも重なったため、多くの方が来場され、会場は大いに賑わいました。

【2025 年に向けて】

本プロジェクトの目標は、「淡海のいろ」を未来に伝えていくことです。2025年に滋賀県で開催されます第79回国民スポーツ大会での情報発信を基準に、各方面に「淡海のいろ」が採用されるように活動しております。2025年は当組合設立75周年を迎える記念すべき年でもあります。設立から歩みを進めてきた当組合にとっても大きな意義があるプロジェクトです。また、本プロジェクトを通じて、組合員が「価値協創」へ、ベクトルを合わせ、印刷業界の無限の可能性を迫及していきます。



滋賀県立美術館での展示会



無印良品での展示会

滋賀県印刷工業組合 事務局

〒524-0041 滋賀県守山市勝部 3-11-16 アヴァンセ守山302
TEL 077-582-6184 / FAX 077-582-6185
URL <https://www.pia-shiga.com/>



くるぞ、ブロック協議会。

さあ、はじまりました。全青協カポッドキャストによろこ!
私は、全国青年印刷人協議会の議長を拝命しております。
大阪の新星印刷株式会社、西岡天芳です。

さて、今回は、いよいよ始動開始!!全青協ブロック協議会
の日程のお知らせです!

今期のブロック協議会は...なに〜!? 各地でコンテンツ
が違うだとい?!

めざせすべてのブロック協議会コンプリート!! さて、
あなたは、生き残ることができるか。

このページにポッドキャストQRコードを掲載しております
ので、是非ともアクセスして全青協の活動を身近に感じて
みてください! それでは、続きは、カポッドキャストで。

さよ〜なら〜。

全国青年印刷人協議会 北海道ブロック協議会 8月31日 sat 13:00 START @ かでる 2.7 北海道立道庁活動センター 2F 札幌市東区南一条 6-1	全国青年印刷人協議会 九州ブロック協議会 9月14日 sat 13:00 START @ 福岡印刷会館 2F 大会室 福岡市東区新港 4-1	全国青年印刷人協議会 中国ブロック協議会 9月21日 sat 13:00 START @ 国際ファミリープラザ 3F 会議ホール 鳥取県米子市加茂町 2-180
全国青年印刷人協議会 中部ブロック協議会 10月12日 sat 13:00 START @ 中日ホール&カンファレンス 80003 愛知県名古屋市中区 4-1-1 中日ビル 6F	全国青年印刷人協議会 東北ブロック協議会 10月19日 sat 13:00 START @ 作人館 宮城県仙台市青葉区 4-40	全国青年印刷人協議会 四国ブロック協議会 11月2日 sat 13:00 START @ オビヤギルド 2F 第1ホール 高知県高知市青葉町 1-14-9 奥り恵ビル 3F
全国青年印刷人協議会 関東甲信越静岡 ブロック協議会 11月9日 sat 13:00 START @ ホテルニューイタヤ宇都宮 栃木県宇都宮市大通り 2-4-6	全国青年印刷人協議会 近畿ブロック協議会 11月16日 sat 13:00 START @ 京都 JA ビル 202+203 会議室 京都府京都市東山区九条西山正町 1	全国青年印刷人協議会 東京ブロック協議会 11月23日 sat 13:00 START @ 大塚商会 大会室 東京都千代田区豊田 2-7 第1B-4

2024-25 全国青年印刷人協議会 ブロック協議会

地域変態計画

〜アトツギベンチャーが未来を変える〜

Successor inherits to change the future.

全青協カポッドキャスト

全国青年
印刷人協議会
ALL JAPAN YOUTH PRINTING ASSOCIATION

<https://blue-print.jp/>

中小企業省力化投資補助金について

株式会社 GIMS 中小企業診断士 實積 昌彦

https://gims-consulting.com/houzumi@gims.co.jp

今年度から新しく実施することとなった中小企業省力化投資補助金。人手不足への対応は印刷業界だけでなく、国内全ての産業・業種に共通の課題となっています。この補助金は現場での作業負担を軽減するための設備投資を支援するものとなっています。今回はこの補助金について現状、分かっている点を中心に解説を行いたいと思います。

●中小企業省力化投資補助金の主旨・目的

中小企業省力化投資補助金という施策の主旨について押さえておきましょう。公募要領「事業の目的」には以下の文章が記されています。

人手不足に悩む中小企業等が IoT・ロボット等の人手不足解消に効果がある汎用製品を導入するための事業費等の経費の一部を補助することにより、省力化投資を促進して中小企業等の付加価値額や生産性向上を図るとともに、賃上げにつなげることを目的とする。IoT・ロボット等の人手不足解消に効果がある汎用製品で補助の対象となるものをあらかじめ登録・掲載し、中小企業等が選択して導入できるようにすることで簡易で即効性がある省力化投資を促進する。

ここでのポイントは、省力化における「汎用製品」である点です。同じ省力化設備でも、ものづくり補助金の省力化オーダーメイド枠と差別化している点が分かります。単体で導入し即効性が高く、かつそれほど価格が高くない汎用製品を対象としていることが分かります。

補助額と補助率

それでは、次に中小企業省力化投資補助金の補助額と補助率を見てみましょう。補助額と補助率は下記図の通りです。

従業員規模	補助上限額	補助率
5 人以下	200 万円	中小企業 1/2
6 ～ 20 人	500 万円	
21 人以上	1,000 万円	

図：中小企業省力化投資補助金の補助額と補助率

補助率が1/2であることから、21人以上の場合でも 2,000 万円くらいの設備を想定しているようです。なお、賃上げを実施する会社については補助上限額を UP することとなっています。

申請にあたって理解しておく用語定義

中小企業省力化投資補助金では当該制度特有の用語が出てきます。先にこの用語定義について押さえておきましょう。

用語	定義
製品カテゴリ	特定業務に使用され動作原理や外観、規模等が類似する製品の分類
カタログ	省力化製品が登録されている製品リスト
省力化製品	製品カテゴリに属し製品カタログに登録された汎用製品
製品製造事業者	省力化製品を製造するメーカー
販売事業者	省力化製品を販売する事業者（商社・販社）

図：省力化補助金における用語の定義

用語定義通り、本補助金では先行して製品のカテゴリを申請し、その後承認されたカテゴリに該当する省力化製品を登録して製品カタログを作成することで初めて補助金の申請ができる事になります。つまり、製品カテゴリの登録ができなければカタログに省力化製品の登録ができず、補助金申請もできないという事になります。

現在登録されている製品カテゴリ

7月時点において印刷業界で活用が可能な製品カテゴリは4点になります。

製品カテゴリ	製品イメージ
M デジタル紙面色校正装置 (グラビア・紙器パッケージ用デジタルブルー)	
O 丁合機	
P 印刷用紙高積装置	
Q インキ自動計量装置	

いずれも製品カテゴリは登録されているのですが、製品登録はされておらず現時点では申請ができない状況です。しかしながら早晩製品登録がされるものと考えます。

申請方法について

申請については、販売事業者との共同申請という形態になります。大きな流れは下記の通りです。



販売事業者との共同申請という事もあり申請者の負担はかなり軽減されていると考えます。

今回は今年から始まった中小企業省力化投資補助金について解説を行いました。当該補助金はこれから3年間実施するようです。また製品カテゴリや登録する製品も逐次増加するようですので、登録状況を確認しつつ自社に最適な設備をご検討ください。



外国人労働者の在留資格 「特定技能1号」対象業務に「印刷・製本業」を追加

政府は、本年3月29日の閣議決定により、特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する基本方針及び特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針の変更(対象分野：12分野→16分野)を行い、外国人労働者の在留資格「特定技能1号」の対象業務に「印刷・製本業」を追加した。

特定技能制度は、国内人材を確保することが困難な状況にある産業分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れることを目的とする制度である。

印刷・製本業は、これまで多くの外国人技能実習生を受入れてきたが、技能実習ではなく、外国人を戦力として受入れたいという声を受けて申請していた。今回の特定技能制度1号の認定では、全日本印刷工業組合連合会、全国グラビア協同組合連合会、全日本製本工業組合連合会のいずれかの団体に所属する企業であることが受入れ要件となり、これにより都道府県印刷工業組合の組合員は1号特定技能外国人労働者(「技能評価試験」と「日本語能力試験」に合格した特定技能外国人労働者)の5年間の受入れが可能となった。

●特定技能制度の対象業務の追加(令和6年3月29日閣議決定資料より関係箇所を抜粋)

分野名	改正内容	改正後の業務区分	特定技能2号の受入れ	分野独自の要件
工業製品製造業	紙器・段ボール箱製造、コンクリート製品製造、陶磁器製品製造、紡織製品製造、縫製、RPF製造、 印刷・製本 を新たな業務区分として追加	・機械金属加工 ・電気電子機器組立て ・金属表面処理 ・ 印刷・製本 [10業務区分]	今回の新規追加業種は特定技能1号のみ受入れ可	※

※協議会入会要件として以下の内容を定める。

- ・**印刷・同関連業(印刷・製本区分)**については、全日本印刷工業組合連合会、全国グラビア協同組合連合会、全日本製本工業組合連合会のいずれかに所属していること。

全国の印刷関連イベントのお知らせ

今後開催予定の全国の印刷関連イベントの開催日、イベント名、開催場所をお知らせいたします。
多くの組合員の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日	イベント名	開催場所
10/18(金)～19(土)	第18回 2024 印刷産業夢メッセ	広島ガーデンパレス(広島県広島市)
10/23(水)～25(金)	ラベルフォーラムジャパン 2024	東京ビックサイト(東京都江東区)
1/8(水) 2025	2025年 新年交歓会(日印産連)	The Okura Tokyo(東京都港区)
2/15(土)～16(日)	ペーパーサミット 2025	大阪産業創造館(大阪府大阪市)
2/19(水)～21(金)	page2025	サンシャインシティ(東京都豊島区)
3/13(木)～14(金)	JP2025・印刷DX展	インテックス大阪(大阪府大阪市)



Giving Shape to Ideas



多様な視点で
印刷の未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

印刷ビジネスの課題を共に解決

 受注拡大 デジタルを活用した受注体制の強化で顧客拡大を支援 印刷物への多様な付加価値創造で他社との差別化を支援	 生産性向上 自動化やスキルレスでの作業性で効率化&工数削減 生産プロセスのスリム化で生産性&利益率向上	 環境配慮 SDGsや環境課題解決への取り組み支援 働き方改革など事業継続に必要な社内環境構築支援
--	--	---

コニカミナolta ジャパン株式会社

つながるプリントラボ

プロフェッショナルプリント事業部 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 TEL. 03-6311-9061



共に創る
印刷業の未来を

簡単アクセス!



インサツのこれからをかんがえる
Print Compass
Powered by RICOH

リコー・ジャパン株式会社 〒104-6033 中央区晴海1-8-10 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX33F

Horizon

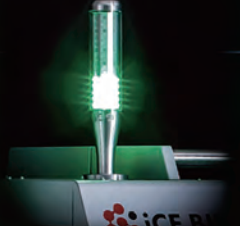
Change the focus

ホリゾン・ジャパン株式会社
www.horizon.co.jp

HORIZON SMART FACTORY 2024

自動化から無人化へ

2024年10月9日(水) ~ 11日(金)



SCREEN

印刷市場に革新をもたらす。



フルカラーバリアブルプリンティングシステム
Truepress JET 560HDX

詳しくはこちら 

株式会社 SCREEN GP ジャパン 本社 / 03(5621)8266(代)
〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマトネ深川1号館

株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ
www.screen.co.jp/ga

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

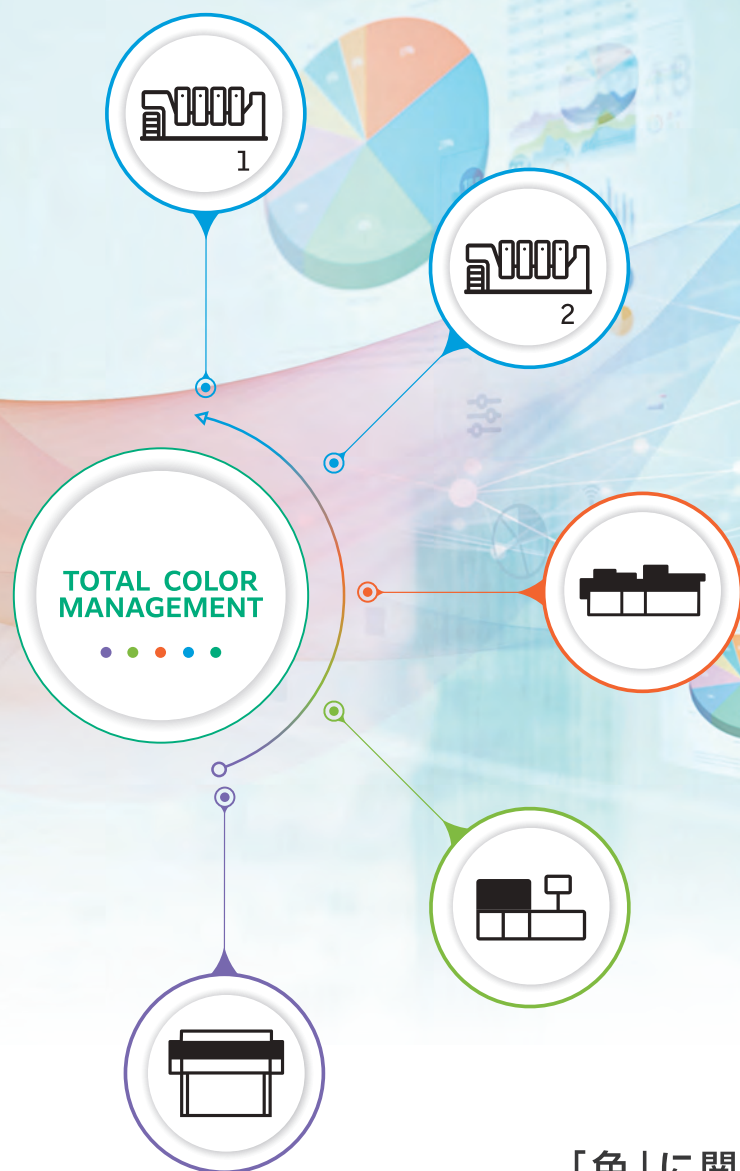
RMGT リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

〒726-0002 広島県府中市鵜飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

RMGT-CSPIの詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/cspi/>





総合カラーマネージメントソリューション

FFGS QC Navi

「色」に関する課題を共に解決し、 生産効率の最大化を目指す トータルソリューション。

さまざまなジョブをつねに最適なコスト・時間で生産するには、
工程全体の品質の統一と安定化が必要です。
すなわち、「オフセット印刷・デジタル印刷の色品質が統一され、安定した状態」。
この理想的な生産環境の実現に向け、富士フイルムは、
長年にわたる印刷診断活動で得たデータや、独自の知見・ノウハウを活かし、
お客さまの生産設備に合わせた課題解決から、色品質の維持管理まで、
ワンストップでサポートいたします。

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社